

あおもり産業立地フェア開催報告

あおもり産業立地フェアは合計331名の方にご来場いただきました。ご来場誠にありがとうございました。

今回は「あおもり人財力！企業の未来を青森から」をテーマに、企業のポテンシャルを最大限発揮できる青森の立地環境を首都圏及び中京圏の企業の方々にご紹介いたしました。質の高い豊富な人財、のびのび暮らせる住環境、充実していくインフラ整備など、新たなステージへと進む「青森県」を今後もぜひご期待ください。

名古屋会場 平成25年9月9日(月) 15:00～19:00
名鉄グランドホテル

東京会場 平成25年10月21日 16:00～19:00
ホテルグランドパレス



知事プレゼンテーション



知事プレゼンテーション



立地企業
ショートスピーチ
公盛工業株式会社
専務取締役 杉浦綾彦氏



レセプション
展示PRコーナーを設けた交流会



立地企業
ショートスピーチ
株式会社宝幸
代表取締役社長 三輪孝之氏



レセプション
展示PRコーナーを設けた交流会



特別講演
「日本経済の行方と勝ち残る会社の条件」
経済ジャーナリスト 財部誠一氏



特別講演
「グローバル経済と日本の行方」
国際ジャーナリスト
明治大学国際日本学部教授 蟹瀬誠一氏

企業立地のご相談・お問合せ

青森県 商工労働部 産業立地推進課

〒030-8570 青森市長島1-1-1
TEL.017-734-9381 FAX.017-734-8109
E-mail:kogyo@pref.aomori.lg.jp

青森県 東京事務所 産業立地推進課

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1 住友生命八重洲ビル5階
TEL.03-3271-0707 FAX.03-3271-0708
E-mail:A-TOKYO@pref.aomori.lg.jp

青森県 名古屋産業立地センター

〒460-0008 名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル8階
TEL.052-259-7688 FAX.052-259-7805
E-mail:a-nagoya@pref.aomori.lg.jp

青森県 大阪情報センター

〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-900 大阪駅前第1ビル9階
TEL.06-6341-2184 FAX.06-6341-7979
E-mail:a-osaka@pref.aomori.lg.jp

青森県 福岡情報センター

〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-34 住友生命福岡ビル1階みちのく夢プラザ
TEL.092-736-1129 FAX.092-716-2037
E-mail:a-fukuoka@pref.aomori.lg.jp

「青森県産業立地ガイド」ホームページ

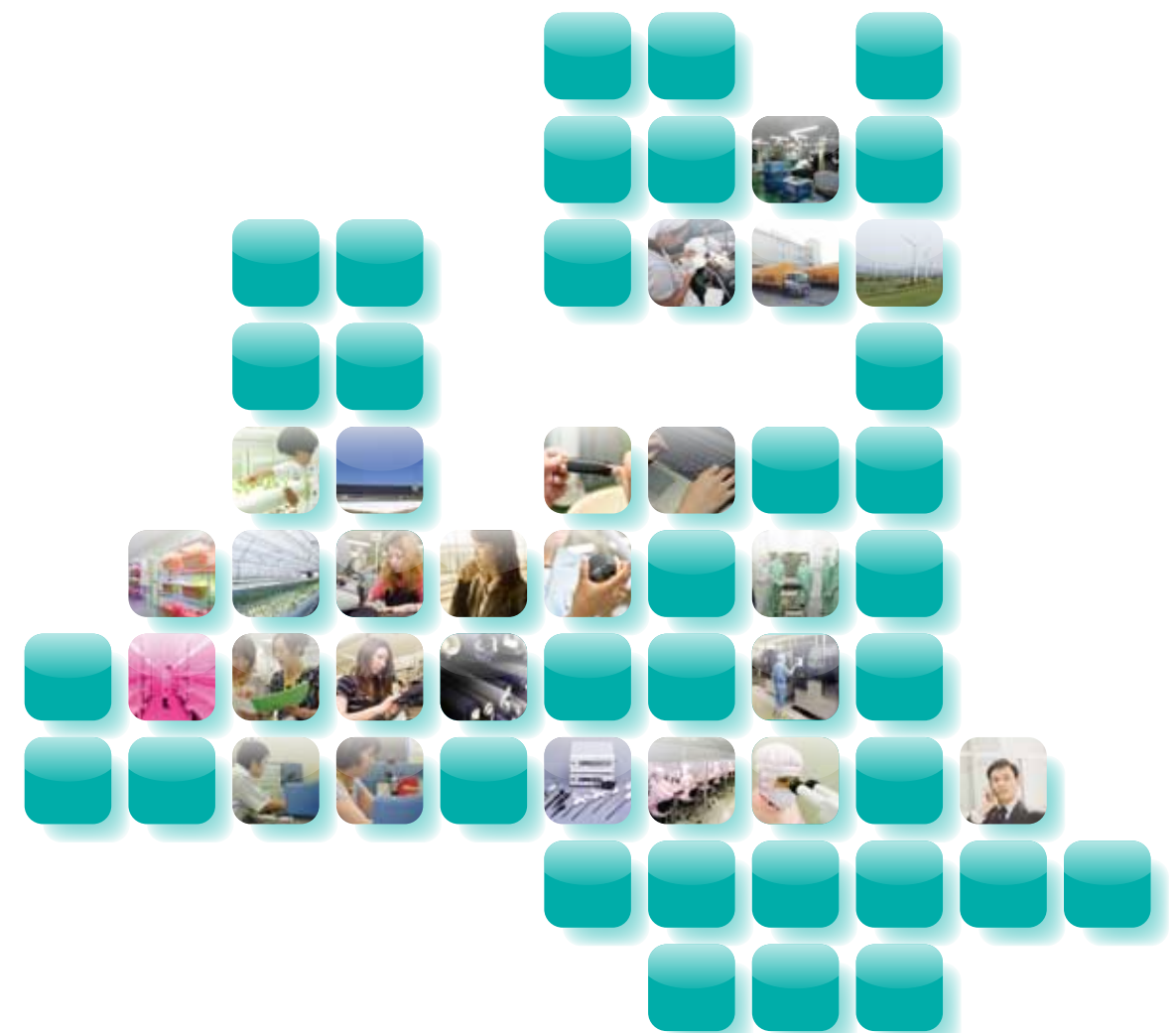
青森 産業立地
<http://aomori-ritti-guide.jp>

青森Biz通信

知 っ て く だ さ い ！ 新 ・ 青 森 力



北東北の交通ネットワークの要所・青森



青森空港まで東京から75分、名古屋から80分、大阪から90分

	青森空港 東京便 / 12便(6往復) 名古屋便 / 4便(2往復) 大阪便 / 6便(3往復) 札幌便 / 6便(3往復)	三沢空港 東京便 / 6便(3往復) 大阪便 / 2便(1往復) 札幌便 / 2便(1往復)	ソウル便(仁川) 青森空港から 週3日運航 (2013.12現在)
--	---	--	---

ソウル(仁川)直行便を利用すれば、アジア方面への出張時間が短縮されます。

	週2便 中国・韓国航路 大連、青島、光陽、上海ほか	月1便 北米航路 シアトル、バンクーバー	週3便 国際フィーダー航路 横浜、東京 (2013.12現在)
--	-------------------------------------	--------------------------------	--

中国・韓国航路、北米航路、及び内航定期航路などを開設しています。

	東京⇄新青森間 1日17往復 最速で2時間59分！ (2013.12現在)
--	---

東京～新青森間を最速2時間59分で結び、首都圏から県内主要都市への日帰りが可能となりました。



良質な人材と立地環境を 低コストで確保できるから、 海外部品メーカーにも 負けないと思います。

専務取締役
杉浦 綾彦さん

東日本大震災を経験して、 「陸続きの強み」を つくづく実感しました。

当社では自動車部品の切削加工をしています。モットーは少量多品種、高精度、短納期。自動車部品最大手のデンソー様をはじめとする自動車関連会社とのお取引が多いですが、特に短納期で評価をいただいています。

三沢工場の稼働は2009年。進出を検討し始めたのはさらにその5年前にさかのぼります。以前より、東海大地震はいつ来てもおかしくないとされていて、リスク分散のために愛知県外に工場を設立することにしました。実は全部で4県視察したのですが、第一に地震が少ない土地で、他にも大きなメリットがあると判断したので、三沢市にしたのです。



ところが皮肉なことに東日本大震災が起きてしまいました。三沢市では工場の被災は免れたものの、停電や物流のストップという事態に直面しました。早速本社では現地従業員の支援と製品の回収を自力でやろうと決め、地震翌日の朝8時にはレンタカー3台に支援物資を詰め込んで出発。太平洋側は道路が寸断されていたので日本海側を通り、着いたのはその日の夜11時頃です。物資は従業員だけでなく、近隣の方々にも分けてあげられました。そして帰りは製品を積んできたのです。元々、高速道路はもちろん、新幹線も飛行機も船も使える良い立地なのですが、このときほど「陸続きの強み」を実感したことはありません。

三沢工場では、 明るく一生懸命な若い従業員達が 結果を出してくれています。

三沢工場の従業員は平均年齢32.4歳。若い世代が活躍しています。皆さん本当に勤勉です。例えば当社では全従業員にQC検定(品質管理検定)を取得してもらうのですが、取得するまでの日数、取得率ともに、本社・和泉工場よりも成績がいいんです。また定着率は91.1%と高く、辞められるとしても自己都合はほぼなし。大体が旦那様の転勤に伴うものなどです。出勤率も99%と驚異的で、1%の欠勤も車が大雪に埋まってしまったという不可抗力のような時だけでした。そのくらい皆さん真面目に一生懸命やってくれています。

さらに、2011年にデンソー様の仕入先QC発表大会で三沢工場のサークルが最優秀賞を獲得しました。QC活動では、みんなで知恵を出し合って協力していた姿が印象的です。先の東日本大震災の際に近隣の方々へ些少ながら支援をしたことで、その方々がQC活動で協力してくれたのです。そこで生まれた地域と連携した取り組みが評価されたことがうれしですし、実際に仕事としてもコストダウンを実現できました。



三沢市に進出してみて、 ここなら海外工場の価格競争力に 負けないことを知りました。

当社が魅力を感じたのは、初期投資。地価でみると愛知県に比べ1割以下で済んでいます。なので今ある三沢工場の隣にもうひとつ建てよ

うかと思っているくらいです。

補助金制度もいくつもあって、フルに活用させていただきました。

また、電気・水道料金など様々なもののランニングコストが低いのも助かります。

補助金制度を考慮し、上記ランニングコストを指標として比較すると愛知県より低いのはもとより、日本メーカーの工場進出ラッシュが続くタイ・バンコクの工業団地よりも低いのです。もちろん当社の業態の場合なので、他業種だと違ってくるのかもしれませんが。

あと忘れてならないのが、行政のバックアップです。進出に際して青森県庁の方には本当にお世話になりました。ひとつ質問すると親切に2つ3つと細かく、いろいろ教えてくださいました。

自動車部品業界では、部品の共通化などの動きや、コスト競争により日本からモノづくりが出て行ってしまうています。国内のモノづくりは今、苦しい環境ではありますが沢山のメリットがある三沢工場を中心としたモノづくりで、海外部品メーカーに勝っていきたいと思っています。



公盛工業株式会社 三沢工場

〒033-0022
青森県三沢市大字三沢字湊代平116-3162

本 社 愛知県安城市横山町寺田70-2
会社設立 1950年8月
操業開始 2009年
従業員数 67人(三沢工場15人)
事業内容 自動車用部品の精密切削加工

2013年8月現在



代表取締役社長
三輪 孝之さん

食の資源は、 豊かな自然が生み出すもの。 だから青森県に進出しました。

魚を獲るだけの会社から、 総合食品会社へと舵を切ってきました。

私ども宝幸は、1946年に水産会社として創業いたしました。戦後間もない日本に、貴重な栄養源であった動物性たんぱくを供給することを使命に世界各国の漁場に進出しました。創業期はマグロ・カツオ漁、母船式サケ・マス漁などを手がけておりましたが、1959年には海で魚を獲るだけでなく、陸上でそれらを加工する事業を開始しました。翌1960年に八戸市に工場を竣工させたのも、その一環です。

その後も母船式かに漁や大西洋トロール漁、北方トロール漁などで水産事業の拡大をしながらも、乳製品事業や冷凍食品事業を立ち上げるなど、多角的に業容を拡大し、近年はさらにフリーズドライ事業を加え、今では総合食品会社として道を進んでおります。



進出理由は、いたってシンプル。 良質で豊富な水産資源があるから。

八戸市に進出したのは、やはり日本を代表する八戸港があるからです。八戸港はたくさんの魚介類が次々と水揚げされる優れた港です。魚は新鮮なうちに加工するのが何といっても一番。だから港の近くに工場を建設しました。八戸工場は、缶詰や瓶詰などの常温食品事業を担っていましたが、今年2013年に第2工場を竣工させ、現在では、第1工場で缶詰を、第2工場ではレト

ルトパウチと瓶詰を製造しています。

八戸で生産能力を倍増するに至った背景には、缶詰をはじめとする常温食品のニーズの高まりがあります。それは非常食としてのニーズと、おかずとしてのニーズです。



東日本大震災の後、食品業界では、非常食として常温で長く保存できる食品の需要が伸びております。また、共働き家庭が増えている時代背景もあり、加工済みで手軽に食べることができるおかず商品の需要も伸びております。これらの需要を満たせるのが缶詰や瓶詰、レトルトパウチなのです。

工場進出先は、企業毎の様々な思惑や考えの下、決定されると思いますが、時代に求められる確かなニーズがあり、それに応えられる良い資源、良い素材があるからこそ、それらを最大限に活かすことができる工場を作る。シンプルながらも、これは工場進出のひとつの理想型ではないでしょうか。



青森県は、 良質で正直な食品づくりに ふさわしいところです。

実際、青森は食材王国。素晴らしいところで、八戸工場の製品には、数年前から「青森の正直」という丸いマークと「決め手は、青森県

産。」というキャッチフレーズを入れさせていたでているものがあります。これは青森県が、県産の農林水産物や畜産物を主原料とするものに対し使用を許可している青森県のブランドです。私どもの「青森の正直」ブランドを使用させていただいているシリーズとしては、サバの缶詰(水煮、味噌煮、味付)が筆頭です。八戸は大変良質なサバがたくさん揚げられますので、そのサバを缶詰にして全国に販売しています。そして陸奥湾ホタテの水煮缶、県産牛肉の大和煮缶、鶏肉のほぐし身のレトルトパウチなどが続きます。魚以外の食材も大変豊富な県です。

また、私どもは2003年から日本ハムグループに入りましたが、グループの関連会社が私どもを含めて青森県内に14社もあります。このことから、日本ハムグループにとって青森県は、なくてはならない県だと言えるのです。

そして人もいい。みんなコツコツと真面目に努力してくれます。このように人材や食材が揃っていて、新幹線や飛行機などのアクセスも年々良くなっている。私どものような食品会社にとっては、まさに宝物のようなところですよ。



株式会社宝幸八戸工場

〒039-2241
青森県八戸市大字市川町字尻引前山31-203

本 社 東京都品川区大崎2-1-1
会社設立 1946年2月
操業開始 1960年
従業員数 770人(八戸工場92人)
事業内容 水産品・乳製品・冷凍食品・缶詰・レトルト食品・フリーズドライ製品の製造・加工・販売

2013年3月現在